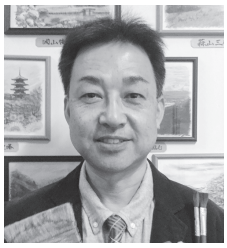
私の工夫

美術科における学びの工夫、ふれ合う喜びの創造をめざす。

赤磐市立高陽中学校
教諭　土師　匡弘



1　はじめに

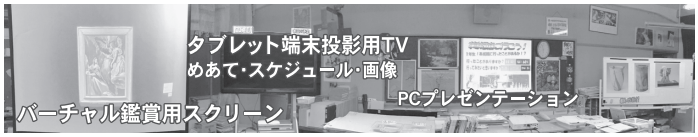
多くの学校で美術科の教師は一人配置です。「その先生がその学校の美術を担い、変えていく」「美術で学校を明るく、元気に、そして、少し美術的に…」そんな思いで日々取り組んでいます。

「美術科の大切な学びとは何だろう。美術だからこその学びを追求しなければ…」

美術を教えていく上で、大切なイメージです。生徒が、美術に親しみ、ふれ合う活動やその喜びを通して情操が養われ、人生がより豊かになものになることが美術科に求められるテーマです。現行の学習指導要領では創造することの楽しさを感じ、造形的な創造活動の能力を育て、美術の働き、美術文化に関心を持ち、主体的に関わっていくことに重点が置かれ、その充実が図られてきました。私も鑑賞活動の充実や創造的な造形表現を意識した授業を行うように心がけてきました。今回はその取組の一端を紹介します。

2　表現の多様性を求めて

2年生では、「表現を工夫して、メッセージを伝える」3年生では、卒業制作として「ボックスアート」を制作の中心にしています。素材や表現を工夫して、描いたり、つくったり、コラージュするために、美術室には「素材畑」と「画材島」があります。



制作に必要な材料は、素材畑を利用しながら、自分でも調達して制作します。これからも「美術室に来れば何でも描けて、何でも作れる…だから楽しい。頑張りたい」を目指したいと思います。

3　鑑賞活動の充実とICT機器の活用

美術室でバーチャルな鑑賞や美術館体験ができるように教室の前面を視覚支援を意識した形態にしています。一見で「わかり、感じ、楽しい」を目指し、今では黒板がプロジェクターのスクリーンに、TVが画像の提示、めあてやスケジュールの連絡用になりました。タブレット映像やPCプレゼンとの切り替えも工夫して、「見せて魅せる」を楽しんでいます。そして、移動式のホワイトボードや黒板を配置し、板書や掲示に活用しています。「美術館に行こう」をテーマにした授業ではバーチャル地図ソフトで美術館に飛び込んだり、バーチャル美術館鑑賞を楽しんでいます。世界の美術館の仮想鑑賞体験ができるので、ぜひお勧めしたいと思います。

4　美術館との連携プログラム

国立近代美術館で開催される鑑賞教育充実のための指導者研修に参加し、改めて鑑賞活動の大切さと美術館との連携が大切な学びのリソースであることを感じました。

美術館から「どうぞ」と手をさし伸べてくれているので、「お世話になります」と活用させてもらっています。大原美術館や岡山県立美術館を鑑賞体験で利用させてもらっていますが、本物を見ることは何よりの鑑賞となります。また、岡山県立美術館で開発された「アートトラベリング・トランク」はその制作にも関わらせていただきましたが、試行錯誤の末にできた岡山県の美術に特化した鑑賞授業の必須アイテムだと思います。ぜひ、岡山の美術鑑賞の授業に使っていただきたいと思います。

岡山県立美術館

大原美術館　学年鑑賞

大原美術館
対話型鑑賞

5　作品を発表、公開する

授業で制作した作品は公開・発表する場が必要だと思います。生徒には「頑張って描いたから、作ったから自分の作品を見てほしい」という思いがあり、展覧会を催すことは学校の教育活動を地域に発信し、より理解や協力を得ることにもつながります。赤磐市では中学生美術展を始めて16回になりました。現在は加賀中学校も研究会を共にし、例年2千点を超える作品を展示しています。毎年2月に開催し、各校の1年間の制作活動を地域のみなさんにご覧いただいています。また、各校の美術部員が夏休みに一堂に会して合同制作会を行っており、その作品も展示の中心となっています。共同制作や展示について議論することで、学校間交流の場ともなっています。こうした努力が実り、たくさんの先生方に鑑賞していただけるようになりました。

6　おわりに

本年度11月に造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会が岡山で開催されます。東備地区では、備前焼の鑑賞授業を研究し、郷土岡山、地元備前の歴史や伝統を美術の学びを通して伝えていくことをテーマにチームで研究を進めてきました。昨年度、岡山美術教育協議会の先生方にもご尽力いただき、備前焼の鑑賞資料、ＤＶＤを制作していただきました。記念講演をしていただく人間国宝の伊勢崎淳先生からも昨品を提供していただき、研究授業を行っています。多くの方々のご協力でより良い授業ができるように準備が進んでいます。この場を借りてお礼を述べたいと思います。